

カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎!

TEL 03
(5950)
1771

住宅建築の担い手を確保する活動 東京建築カレッジ 第29期生募集にご協力ください



図面の読み方、手道具の使い方、墨付け、加工の基本を学んだ後に、グループで小さな立体構造物をつくります（上写真）。部分の加工が正確でなければ、全体はゆがんでしまいます。建築の本質を課題の1つ1つから学んでいきます。（2023年4月入学の第28期生）

東京建築カレッジは来年4月入学生（第29期生）募集活動を強化しています。今、建設業は担い手確保を「最大かつ唯一の課題」（国土交通省不動産・建設経済局長）とし「これ以上、人が減ると産業として成り立たない」（同）状態です。特に深刻なのが住宅建築の担い手不足です。2020年の国勢調査によると、基幹職種とされる建築大工はこの20年間で半減しました。「若者が敬遠」「住宅の修繕停滞、懸念」（日本経済新聞2023年3月26日付、下写真）という事態です。

こうした状況を打開するために、日本最大の建設労働組合、東京土建が運営する東京建築カレッジは新規入職者の獲得と育成に全力を挙げています。人と自然にやさしい木の建築への関心は高く、プロフェッショナルをめざす若者はいます。労働基準法など法令をしっかり守る正社員雇用など待遇改善も前進しています。みなさまの家族、お知り合いの若者をぜひご紹介ください。

◆「大工になりたい若者はいます」「『新人には基礎を身に付けさせよう』が社長の考え」「来年も建築カレッジに2～3人入れる予定です」・・・9月27日、新人採用活動の途中経過報告で来校した中堅ハウスメーカーの総務部長

◆「建築の仕事に就きたい若者に、就職先が教育費を負担して勤務時間中に建築カレッジで学ばせる仕組みは素晴らしい。多くの人に知らせていきたい」・・・ハローワークの就職相談担当



学校紹介は
こちらから



建築カレッジの授業は、
座学も実習も素晴らしい。
魅力はもっと伝えるべき!



第28期生（現1年生）
クラス運営委員長の
小堀 晴野さん
（川津工務店）

林業や造園など複数の職業を経て建築大工に。東京建築カレッジを新人教育に利用する工務店との出会いが入学のきっかけでした。

日本経済新聞
2023年（令和5年）3月26日（日曜日）

大工半減

住宅の建設や修繕の担い手である大工が減っている。2022年末時点で、20年間で30万人弱と過去半減した。賃金水準などの待遇改善が遅々として進まず、若い世代が減り、高齢化が一段と進んでいる。新築建設は、すでに不具合の増加が一部で指摘されているほか、6000万戸超ある既存の住宅の修繕の停滞も懸念される。国勢調査によると、大工の人数は20年時点で29

20年間で、若者が敬遠
住宅の修繕停滞、懸念

万9000人、40年前の1980年と比べると約3分の1の水増し。建設業の労働環境に詳しい芝浦工業大学の繁沢宏樹教授は「建設・土木作業員全体でも人数は減っているが、減り方はビク同期の300万人超から200万人弱へとおよそ3分の2の減少だ。大工の人数の落ち込みは著しい」と話す。

ほかの業種より高齢化も際立つ。20年時点で大工の約60%が50歳以上で、うち30%超は65歳以上

東京建築カレッジは来春入学の第29期生を募集中です。10月15日(日)には卒業生講師が教育内容を分かりやすく説明するオープンキャンパス(学校説明会)を江東実習場で開催します。

午前の部は9時30分～正午。午後の部は1時30分から4時まで。

建築カレッジに入りたい方でカレッジに通える就職先紹介を希望される方には「東京建築カレッジ無料職業紹介所」の登録事業所を紹介します。

くわしくは、東京建築カレッジ公式サイトをご覧ください。下のQRコードから。



お問い合わせはお気軽
にどうぞ。TEL03-5950-1771
東京土建技術研修センター内
建築カレッジ係



10月15日(日)はオープンキャンパス(学校説明会)

下写真は9月30日、軸組み実習の上棟後の記念撮影。チームワークも学びながら、次はもっと大きな課題、2階建ての実習棟づくりに挑戦します。(江東実習場)

1年生の授業から



軸組み実習で小屋づくり体験

東京建築カレッジの1年次の実技実習は、手道具の使い方、手入れの仕方を学んだ後、図面を読み取り、自分で墨付けして手刻みで基本的な継手・仕口の課題をこなしていきます。その次に取り組むのが木造軸組みの平屋の小屋を班行動で建てるプログラムです。小屋といっても、原

寸大であり、柱と梁(はり)でダイナミックに構造をつくる軸組みの魅力を十分味わうことができます。この体験を経て、1学年上の先輩が建てた2階建ての実習棟の解体実習(10月7・14日)を行い、並行して自分たちの期の実習棟を建てるための板図(現場で参照用の図面)を作成します。フルハーネス特別教育など安全教育も徹底して行います。

10月22日(日)は府中公園でも
東京土建府中国立支部どけんまつり会場

東京建築カレッジの教育内容の紹介と入学相談を、東京土建府中国立支部の「どけんまつり」会場で行います。9時半～4時。

9月3日(日) 合同研修会開く
事業主と先生が意見交流

東京建築カレッジは所属事業所から研修派遣される仕組みの学校です。OJT(現場実習)という必修科目もあり、事業所もカレッジ教育の担い手です。事業所のカレッジ教育への参加を進めるために、事業所と講師・指導員(実技実習系授業の講師)の合同研修会を昨年に行っています。今年は9月3日に開催し、事業所11社 14人、講師・指導員12人、その他5人の31人が参加しました。

小規模工務店の働き方改革対応や社員が定着する会社づくりのヒントを北村博昭社会保険労務士の講演で学んだ後、カレッジ教育の報告コーナーでは数学担当講師から「建築従事者のための数学講座」テキストづくりの苦労話などが披露されました。また、参加事業所を代表して(株)YAZAWA LUMBER(本社新宿、本店立川)がカレッジを利用した社員大工育成の事例報告を行いました。



事業所と先生がカレッジ生に成長してもらうためにどうしたらいいか、意見交流(分散会)

ミニニュース

▼第27期生(2年生)
「卒業制作」各班テーマとメンバー決まる。
「山車班」「灯笼班」「ビリヤード台班」。
次号『カレッジ通信』で詳細予定。▼11月4日(土)「空き家

問題」テーマに公開講座。専門知識・高度な技術技能が要求される改修はカレッジ卒業生が活躍できる場。出演卒業生4人の顔真、プロフィールなどをホームページに掲出中。▼9月16日、18日、埼玉県熊

谷市で開催の「全建総連第39回全国青年技能競技大会」(出場55人、課題「四方転び踏み台」)に出場した第23期生、関根祥智さんは上位入賞は逃しましたが大奮闘が評価され奨励賞を受賞しました。